

# 1ヶ月経っても『共同決意表明』を結べない 動労革マルー「鉄道労連」の危機

日刊  
**動労千葉**

87. 5. 1  
No. 2540

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

国鉄千葉動力車労働組合

「新会社」発足一ヶ月が過ぎようとする中で、われわれは中江選挙闘争の偉大な勝利をかちとり進撃している。一方、動労革マルー「鉄道労連」は、新会社での新たな「労使共同宣言」である「共同決意表明」なるものを、四月中にも結ぶと言いながら、革マル松崎と鉄労志摩との対立で未だに締結していない。敵の矛盾は拡大する一方なのだ。中江勝利を武器にして、動労革マルー鉄道労連を粉碎せよ。

## 動労革マル松崎、鉄労志摩 「共同決意表明」でキレツ

動労革マルや鉄労にとって「労使共同宣言」とは、「国鉄改革」に協力するためのひとつの「踏絵」であった。八五年一月・第一次、つづいて八月・第二次と二回にわたって「労使共同宣言」を率先して結んできた動労革マルや鉄労志摩らは、「新会社」になった四月早々にも新たな「労使共同宣言」ともいべき「共同決意表明」を結ぶ予定であった。しかし、この「決意表明」の内容をめぐって革マル松崎、鉄労志摩との間で激しい主導権争いが展開され、とくに『ストの自粛』については両者が真っ向から対立しており、両者の「キレツ」がさらに拡がっている。

## 戦争の道を進む革マル松崎

鉄労志摩さえも「自らの権利は放棄できない」として『スト自粛』を盛り込みたくない様子だ。だが、一方の革マル松崎は、勝共連合の機関紙『世界日報』の中で「ストライキをさせないことが私の使命感」とまで言い切っている。このように、中曾根の意をうけた革マル松崎は、労働者にスト権が与えられることに憎悪しているのだ。

この野合する両者の違いは、鉄労が従来の御用組合路線とするならば、動労革マルは、今までの「御用組合」をはるかに乗り越えた労働運動＝戦前の「産業報

国会」同様に労働者を戦場に駆り出すための労働運動を目指しているのである。さらに、七月には「一企業一組合」へ向けて動労、鉄労が解散大会を行うが、この両者の矛盾が絶対に解決できない以上、「一企業一組合」は達成されず、「鉄道労連」も消えさる運命にあるのだ。

今こそ動労総連合  
拡大のチャンスだ

「鉄道労連」が内部で主導権をめぐって暗闘し、「決意表明」が締結できないという「キレツ」の拡大を見せている今こそ、動労総連合の強化・拡大をかちとり、「鉄道労連」を解体・一掃するチャンスだ。

中江勝利をかちとった底力を発揮し、さらに前進しよう。

## 新賃金交渉で回答 不十分な内容のため持ち帰り検討

4/28

動労千葉は、八七年度新賃金交渉について当局と鋭意交渉を重ねてきたが、四月二十八日、次のとおり回答があった。

しかし、きわめて不十分な回答のため動労千葉は、持ち帰り検討することとした。

### 回答書

- 一、昭和六二年四月一日以降の社員の基準内賃金を、一人平均二二一〇円（〇・九五％）引きあげることとする。
- 二、以上の配分については、別途交渉し、決定することとする。